



4月26日(月)、21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)の一環で、フィリピンから、約30人の大学生が吉田キャンパスを訪れました。このプログラムは、日本政府が、平成19年から5年間、毎年6,000人程度の東アジア・オセアニアの青少年を日本に招き、相互理解と友好促進を目的に実施しているものです。

当日は、歓迎セレモニーとして、松田副学長からの歓迎の挨拶、訪問団代表者のスピーチ、山口大学イメージDVDの上映、服部留学生センター長からの大学の概要、入試制度等の説明を行いました。

続いて、キャンパスツアーを行い、埋蔵文化財資料館、図書館、国際交流会館を2グループに分かれて見学しました。

その後、教育学部の「ちゃぶ台ルーム」に場所を移し、日本の「上座」の概念や、「上座・下座」のないちゃぶ台を囲んで学生、教員がディスカッションを行うメリットについて、教育学部の学生から、クイズを交えながら説明がありました。

学生との交流会では、和気あいあいとした雰囲気の中で、自己紹介やゲームで親睦を深めました。訪問団の学生は「初めて日本に来たが、大変美しい国で感動した。日本人は親切だけでなく、勤勉であるという印象を受けた」と感想を述べていました